

“道徳授業「14 歳の責任」の感想”

本文中にある刑法第四十一条とは「14 歳に満たない者の行為は罰しない」というものである。つまり、14 歳以上の犯罪は罰するということになる。また、2000 年の少年法改正では、刑事処分の可能年齢は「16 歳以上」から「14 歳以上」に、2007 年改正で、少年院送致の対象年齢は「おおむね 12 歳以上」と厳罰化が進んでいる背景がある。刑法で罰せられる年齢だから責任を持つべき、といった側面だけの理解ではなく、社会の一員、人間としての責任を自覚してもらいたい。

授業の感想

『私は「14 歳の責任」を今回読んで、前は「やった、14 歳だ！」とか「Happy Birthday!」とニコニコ言えていましたが、今は 14 歳になるのがとても怖くなってしまいました。「14 歳」というのは、まだ二十歳になっていないので、大人ではないけれど責任というものを背負うことが変わらないので、自分自身自覚を持ちたいと思いました。また、人生で時間はその時しかない、チャンスは 1 回ということ自分の体に刻んで入れて、一生楽しみながら生きていけるように頑張りたいと思いました。14 歳の責任はまだ重いようで軽い、微妙なラインのものなので、自分で見分け、判断することとても大切になってくると思うので、物事をよく考えて行動できるようにしたいです。「思考・判断」を頑張ります。』

(1 組)

『14 歳でも大人と同じで、罪を犯したら償わなければいけないことに驚きました。また、もしその罪が軽かったとしても、後戻りはできないのだという責任感を感じました。私はまだ 13 歳ですが、14 歳になったら立場は大人と同じになるので、自分の未来のためにも罪を犯さないようにしようと思いました。しかし、もし自分が罪を犯したならば、最悪な人生になると思います。なので、今のうちに自分自身の責任についてじっくり考えることが大切だということを学びました。』

(1 組)

『この文章を読んで、14 歳でどのような責任があるのかが分かりました。14 歳で大人と同じくらい成長したことなるけれど、14 歳からは犯罪を犯したら刑罰が科されることが現実となり得ることが分かりました。自分は 14 歳とは関係なく何歳でも人間としてやっていいのかなどをしっかりと見分けないといけないと思いました。この文章の二年間は少年院と書いてあったけれど、自分もこの二年間はとても長い、そして大事な二年間だと思いました。皆の友達、そして親の子として、一人の人間としての責任があると思いました。』

『まだまだ子どもだから何をしても大丈夫という考えは甘いと思います。まだ判断力や善悪の判断などがはっきりしない部分がありますが、やってはいけないことをしてしまうと、これからもずっと罪を背負っていかないとけないし、これからの長い未来に傷つけてしまうことになります。このことから、子どもだからということを言い訳にしないでいくことが大切だと思いました。また、14 歳の自分が持つ責任は善悪の判断をしっかりすることではないかと考えました。』

(1 組)

『14 歳から大人とみなされるため、自分の言動が自分の責任になることに気づきました。自分は悪いと思っていなくても、相手の判断により自分が悪者にされてしまうので、今後は相手のことも考える必要があると思います。これからの生活で、相手の気持ちに少しでも寄り添い、よい関係を築いていこうと思いました。そして自分の全ての言動に責任を持ちます。』

(2 組)